

ビブリオバトルにおけるコミュニティ開発機能に関する研究

小松 史乃

ビブリオバトルは、本の紹介を中心としたコミュニケーションゲームである。谷口(2013)は、ビブリオバトルが持つ4つの機能として、1)書籍情報共有機能、2)スピーチ能力向上機能、3)良書探索機能、4)コミュニティ開発機能をあげている。ビブリオバトルに関しては様々な角度から研究が行われてきた。しかし、それらの先行研究ではビブリオバトルのスピーチ能力向上機能に関する研究が多く、コミュニティ開発機能に関する研究は多く見られなかった。そこで本研究では特にコミュニティ開発機能に着目する。先行研究から、ビブリオバトルにおけるコミュニティ開発機能では、継続的な実施やディスカッション、実施後のコミュニケーションが重要とされていることが明らかになっている。しかし、長期にわたる継続的な実施による効果や、追加のコミュニケーションを促進した仕組みの効果については検討されておらず、今後の課題と考えられる。そこで本研究では、コミュニティ開発機能に着目した活動を行っている団体にインタビュー調査を行い、ビブリオバトル公式ルールに追加で設計されたコミュニケーションがコミュニティ開発機能の働きにどのような影響を与えるか明らかにすることを目的とする。

Bibliobattle of the Year の過去の受賞者、また各団体が情報発信している SNS からコミュニティ開発機能に関する独自の取り組みを行っている団体を抽出のうえ、協力を依頼し、最終的に承諾を得られた3団体を対象にインタビュー調査を行った。分析には KH Coder を用い、計量テキスト分析を行った。本論文において、インタビュー調査に協力いただいた団体をそれぞれ団体 X、団体 Y、団体 Z とする。団体 X は、地元公共図書館を会場にビブリオバトルを開催している有志団体である。団体 Y は月に1度レンタルキッチンにてビブリオバトルを開催している。団体 Z は大学生が運営するインターカレッジサークルである。

インタビュー調査とその分析を通して、以下の考察が生まれた。1つ目は、ビブリオバトルを通して形成されたコミュニティの実態とその特徴に関する考察である。インタビュー調査の結果、ビブリオバトルのコミュニティ開発機能における「コミュニティ」が指すものは場合により異なることが示された。そのような違いが生じる原因として、団体の活動目的と、参加者の属性という2つの要素が示された。さらに特徴として、質疑応答時間の拡大、ビブリオバトル実施後の自由なコミュニケーションをとる時間の設計、ビブリオバトル以外の活動の実施などが挙げられた。2つ目に、コミュニティに対して、追加のコミュニケーションがどのように寄与するかに関する考察である。追加のコミュニケーションは、コミュニティの形成、発展、持続という3つの段階で寄与することが示された。

(指導教員 小野 永貴)